

緊急対談!! 小田原は変わった! 次は国だ! まっとうな政治を今こそ!



立憲民主党神奈川県第17区総支部長

佐々木ナオミ

小田原市長 (無所属)

加藤憲一

2024年5月の小田原市長選挙では、佐々木ナオミをはじめとする地方議員が応援した無所属の前職・加藤憲一氏が、政権与党などの推薦を受けた元自民党県議の現職市長に2万票もの大差をつけて圧勝しました。地方都市・小田原に芽吹いた、一筋の改革の風を全国へ広げるべく、緊急対談を実施しました。



「小田原シヨック」を国を変える力へ 5月の市長選で何が起こったか?

佐々木 5月の小田原市長選挙での加藤さんの圧勝は、全国的に「小田原シヨック」とまで言われました。大きな成果でした。

4年間の前市長政権で取りざたされた問題が、自民党政権が長期に続く中で見えてきた裏金の問題や、旧統一教会との関係などという不誠実な政治とオーバーラップし、市民の皆さんの怒り、そして、小田原の未来のために、ここで政治を変えたい、という市民の強い思いが、大きくなっていた。市民がきちんと怒れば政権与党に大勝できる、それを内外に示すことにもつながりました。

という市民の皆さんの意識が大きな票になったと私は思っています。「誠実でまっとうな市政を取り戻す」と訴え続けましたが、それが響いたのだと感じています。

大事なメッセージとして市民の皆さんに響いたと思います。ほぼ70年間、国政でも地方でも、一つの政党が権力を握り、議会での議論は質問も反対もせず、裏でボス同士で決めてしまっていて、お金の力も絡んで、自分たち



の力が届かない。私が18年間地方議員を務める中で、そんな強い政治不信と向き合う日々でした。不信感が強くて、議会なんかじゃない! 政治になんか

関わらない! という声まで広がっていると思います。政治は、自分たちのために誠実なものであってほしいというエネルギは、決して小さくないことを、5月の市長選挙で明らかにできました。これを、小田原という自治体の成功体験にとどめず、この国の希望を持てる未来につなげていかなければならぬ、強く感じています。

加藤 地域の暮らしの現場の困難や、私たちの生活に、国の政治がしっかりと寄り添ってくれているのか、これから人口が減っていく、いろんな課題がすでに噴き出している中では、市民不在、国民不在を進められていく従来の経済至上主義的なまっとうなやり方で、はもう、やり繰りできない。市民、国民のリアルな生活が、持続可能であるかどうかにか立脚した政策論が望まれます。

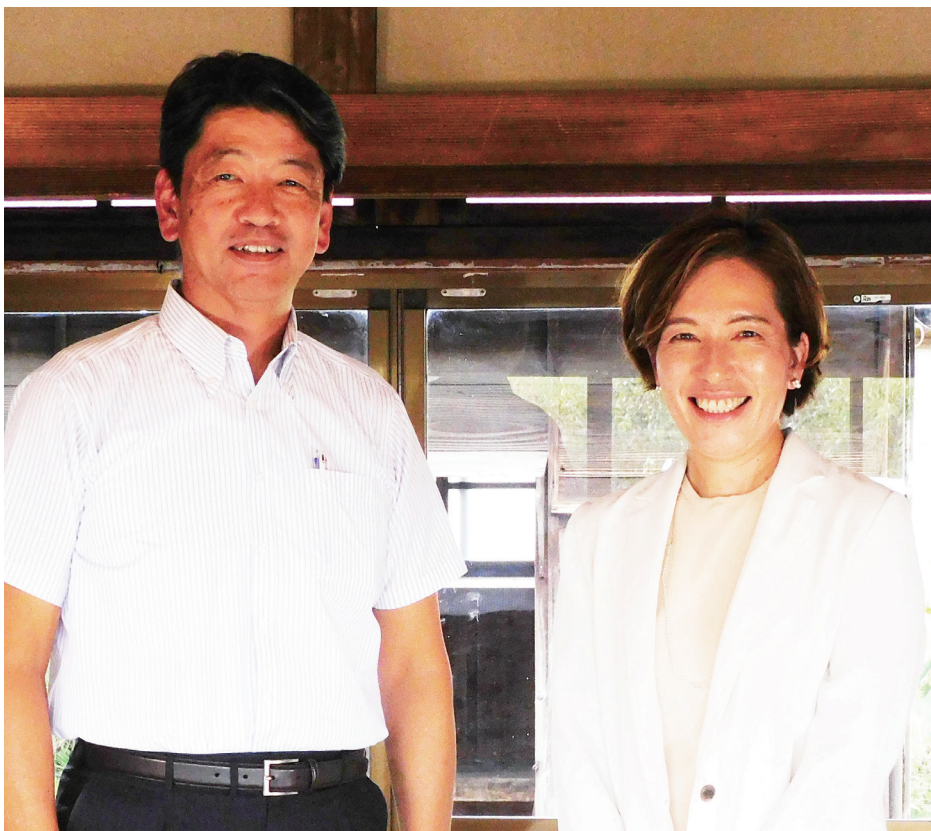
「強又弱な政治に決別し、緊張感のある議論で「まっとうな政治を!」

争として見せるのが一番大事。国政はいま何をすべきか、そこへ向けての選択肢をきちんと有権者に示すことが必要。そういう意味でも、佐々木さんに期待します。

佐々木 私は市議時代、加藤さんと議会ですまざまな議論をしてきました。時には厳しい意見も申し上げさせていただきました。ただ、裁判が検察と弁護側で成り立つのと同様に、政治には多様な立場からの批判が不可欠で、公開の場で意思決定のプロセスを明らかにしていくことは、まっとうな民主主義の大原則だと私は思います。

加藤 佐々木さんは立憲民主党ですが、私自身は無所属です。私を支援する方々の政治的背景はいろいろで、ノンポリの方もいらっしゃる。どの党派かに関係なく、満げんく声を

聞いて議論をし、良い形を見いだしていくのは当たり前のこと。少数派の声が聞き消されてはなりません。また、最近佐々木さんたちの頑張りがあって、県西地域でもたいぶ女性議員が増え、さまざまな声が届き、議論も活発になり、とても助けられています。国政にも広がるよう期待しています。



加藤 そこで、やはり国に進めてほしいのは、地方都市が抱えているリアルな課題をどうやったら持続可能な形で解決できるかという政策論。私だけじゃなく多くの首長さんたちが、社会福祉などにおいては特に、もう国政レベルでの根本的なつくり直しをしないと間に合わ

ないという強い危機感を持っています。佐々木さんは、地方議員になる前から市民活動をずっとやってこられ、農業や教育、福祉などの現場で一緒に課題解決に向き合ってきた女性たちの課題はオーバラップするところがあります。古い家庭観を国会の議論でも守り続けた結果、子どもの数は減り、介護も離職する人が増え、一次産業も地場産業も、後継者不足で、先が見えない状況を作ってしまった。

加藤 加藤さんとは、そうした理念が共有できているという信頼感があったからこそ、私も思い切り議論を戦わせていただけたいと思います。

加藤 佐々木さんにはこれからの正政法で、真つかな立ち向かい方をしてほしい。正政法ですね。

佐々木 はい。地方議員を長くやっていますので、議会で発言するときも、いつも地元の人々の顔を念頭に置きながら、具体的な現場視点で活動してきたことが、私の政治家としての財産です。加藤さんにはこの地域でまっとうな政治、命を中心とした政治を歩んで来た同志として、しっかりと連携してこれからのご指導いただきたい、それが何よりも心強い応援と思っています。

加藤 今回の市長選を通じて、票を投じれば変わるんだという実感を持つ方も多かったと思います。県西部は典型的な保守の地盤で、昔から変わらな

「命を大切にできる小田原」の理念を 持続可能な国づくりへつなげる

加藤 本場に、既存の大きな勢力・団体が軒並み現職の応援に回る中で、厳しい選挙戦だと思っていましたから、佐々木さんをはじめ県西地域の地方議員の方たちの応援は、大きな力になりました。もともと私がやってきたのは、「持続可能な市民自治のまち」をつくるという市政。2020年の選挙で私が敗れて退任した後にはなくなりました。それをもう一回取り戻そう

加藤 加藤さんとは、そうした理念が共有できているという信頼感があったからこそ、私も思い切り議論を戦わせていただけたいと思います。

加藤 加藤さんにはこれからの正政法で、真つかな立ち向かい方をしてほしい。正政法ですね。

佐々木 はい。地方議員を長くやっていますので、議会で発言するときも、いつも地元の人々の顔を念頭に置きながら、具体的な現場視点で活動してきたことが、私の政治家としての財産です。加藤さんにはこの地域でまっとうな政治、命を中心とした政治を歩んで来た同志として、しっかりと連携してこれからのご指導いただきたい、それが何よりも心強い応援と思っています。

加藤 今回の市長選を通じて、票を投じれば変わるんだという実感を持つ方も多かったと思います。県西部は典型的な保守の地盤で、昔から変わらな

加藤 加藤さんにはこれからの正政法で、真つかな立ち向かい方をしてほしい。正政法ですね。

佐々木 ありがとうございます。今こそ、政治を諦めてしまっている日本中の皆さんに、「変えられる!」という希望を込めていけるよう、頑張りたいです!



加藤 加藤さんにはこれからの正政法で、真つかな立ち向かい方をしてほしい。正政法ですね。

加藤 加藤さんにはこれからの正政法で、真つかな立ち向かい方をしてほしい。正政法ですね。



撮影記録場所 / SOGA BLEND

待ったなし！ 地域の経済 人材不足問題の解決早急に！



重田有紀 (大井町議)

地域で働き、地域にお金が回る「地域経済の活性化」は理想ですが、果たして安心して働ける環境があるのでしょうか。県西地域では働き手が減り、保育士や介護人材も地元に着していません。



寺島由美子 (小田原市議)

企業誘致で経済を発展させ、地域の人口を増やすという考え方もありますが、それだけでは、地方都市で人口を取り合うことになってしまいます。命と暮らしを都市間競争させるような政治は、地域を疲弊させるばかり。佐々木さんには、ぜひ地元の声を国に届けてほしいです。

子育て・教育 課題は山積！ 少子高齢化の中どう生きるか



富田陽子 (山北町議)

山北町では年間生まれる子どもが今年度は10人前後で、30人以下が続いている状況です。今は幼稚園、保育園、こども園がありますが、いずれは1園に統合されてしまう可能性がります。現状、小学校も中学校も1クラス。人間関係が固定化されやすい環境は、たとえば子どもがなじめなくなったら学校に居場所がなくなるんじゃないかと、親としてはとても心配です。



佐々木ナオミ (小田原市議)

刻な状況です。小学校は2校あり、今年が1クラスです。中学校の部活動もチームスポーツでは人数が足りず、既に野球部はありません。こうした実情からも人口の多い地域に比べ、子どもの「体験格差」となっていることは事実です。子どもにある権利保障のために、自治体としてその格差をどのように埋めていくのかは大きな課題だと思えます。

は深刻です。さらに、福祉職も、医療従事者や教職員も不足しています。コロナ以降、移住者は増えましたが、せっかくこの地域を移住先を選んでくれたのに、暮らしの基盤が不安定では、がっかりされてしまいます。特に、子どもや介護を必要とする家族を安心して預けられないのでは、この地で安心して働くことができません。まさに負のスパイラルですね。

市町や県もさまざまに努力をしていますが、まずは国が、配置基準の見直しや公定価格の引き上げをし、ケアワークを担う人たちが、どの地域でも安心して働ける環境づくりに本気で着手すべきです。

地域に密着！

立憲民主党神奈川県第17区総支部長
佐々木ナオミ
×
無所属地方議員



小田原市に生まれ育った佐々木ナオミは、市議を3期務めた後、神奈川県議となり現在2期目。地元・県西地域の市議・町議とのネットワークを大切に、地域課題についての意見交換を常に心がけています。地域に密着し、市民・町民の力を集めることが、閉塞感に満ちた今の政治をきっと変えていく、希望になると信じています。

安心して働ける環境・幸せを感じる社会へ... 市民・町民の力で政治を変えよう！

ジェンダー平等 誰もががのびのび 生きづらさに苦しまない社会へ



平野由里子 (松田町議)

地方都市から首都圏への流出は、男性よりも女性のほうが圧倒的に多いというデータがあります。地方では、「男性は仕事、女性は家事育児」という家族観が根強く、女性が自分らしく働ける環境が十分に整っていません。町議会でも、選択的夫婦別姓や女性差別撤廃など議論はなかなか進みません。これでは若い女性には住みにくくて、来てもらえない。自治体で独身者のマッチングに取り組んでいても、

耕作放棄地や後継者不足 一次産業の未来はどうなる？



井上慎司 (開成町議)

この地域の農業の未来に、大きな不安を感じています。後継者不足による、耕作放棄地や鳥獣害問題。新規就農どころか、農家の後継ぎさえも農業を継げない。今日も稲刈りをしてきましたが、コメの出荷価格が低すぎて、やればやるほど身銭を切りながら米を作っているのが現状です。この状況は、林業、漁

まずはジェンダーの問題を地域の人から自分ごととして認識し、理解をしていただかないと、結婚や子育ての話までというのは難しいでしょう。

佐々木 都内に出ていった女性たちに話を聞くと、地域の集まりで女性ばかりが食事やお茶の係になっていたり、出産子育ての役割だけを期待される空気から逃れたいという思いがあるようです。「虎に翼」に共感が広がるのもうなずけます。

経団連が選択的夫婦別姓の導入、LGBT差別の禁止、同性婚の容認を提言しているように、既に社会は先に進んでいます。野党も大方は賛成

業も同じ。この国の一次産業をこれからどう守っていくのか、これはこの国の政治テーマの中心に据えるべき問題だと思えます。

佐々木 農林漁業は、食べ物を守るとともに海や山、ふるさとを守る産業です。イノシシやシカなどの鳥獣害被害、ヒトデや磯焼け、海流の変化、豪雨など、自然の変化の被害を一番に受ける産業です。

今までは関税と転作の奨励など、価格を必死で維持することで農家の所得を支えてきましたが、それでもコスト増が進んで離農が止まりま



自民党さんだけがいつまでも、グズグズしているのはなんでなんだろうと思つたら、統一教会などの宗教右派とのつながりが明らかになり、つまり、この人たちがご機嫌を取っていたのだ！とバツてしまいました。国連の女性差別の撤廃条約に関する選択議定書が全国の地方議会でも議論されていますが、県西地域で陳情が採択されたのは小田原市と中井町だけです。小田原の新人女性議員3人が、選択議定書の討論で、僅差で賛成多数に持つて行った闘い。見ていて涙が出ました。女性議員が増えたことが、確実に力になっています。

2024.10.01 号外
立憲民主
RIKKEN MINSHU

立憲民主党 立憲民主編集部
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-12-4 ふじビル 3F
Tel.03-6811-2301 Fax.03-6811-2302

総支部長 **佐々木ナオミ** ----- Sasaki Naomi profile -----
1969年小田原市田島に生まれる。国府津小学校→国府津中学校→神奈川県立西湘高等学校卒業 (29回生)。和光大学人文学部文学科卒業、大手学習塾勤務を経て1997年小田原に個別指導の学習塾を開業。2007年小田原市議会議員に初当選、3期12年勤める。2018年より保護司。2019年神奈川県議会議員に初当選し、県西地区で戦後初めての女性県議会議員に。2023年神奈川県議会議員に2期目の当選。2024年立憲民主党神奈川県第17区総支部長就任。

立憲民主党 神奈川県第17区総支部 **お問い合わせ** 〒250-0875 小田原市南鴨宮 3-6-13 天野ビル 1F 西 <https://naomi-sasaki.com/>
電話：0465-46-6831 FAX：0465-46-6857 メール：mail_info@naomi-sasaki.com